

道徳 だより

令和 5(2023)年 7 月 20 日

国立市立国立第七小学校

校長 小畑 行広

道徳担当 野間 大佑

第 1 号

保護者の皆様

早いもので、1学期末を迎えました。本校では、昨年度より「特別の教科道徳(以下、道徳科)」について、研究を行っています。今年度の研究主題は以下の通りです。

「他者を理解し、相互に関わり合える児童の育成」

～自分の思いや考えを共有するための工夫を通して～

七小の子供たちの実態を校内で検討した上で、道徳科の授業改善を通して、「相手のことを理解し、互いによりよく関わり合っていく」ことのできる児童の育成を目指しています。1学期には、6月に1年生、7月に3年生で研究授業を実施しました。今後は、9月に6年生、11月に4年生、12月に2年生、1月に5年生で研究授業を予定しています。そして、その集大成でもあり、2年間の研究の軌跡を国立市内の先生方に発表する「国立市研究奨励校研究発表会」を2月9日に行います。

本通信では、校内研究について情報発信するとともに、道徳科についても授業の様子を中心にお伝えしていきたいと思います。

「道徳科の授業ってどんなことをしているの？」

「道徳科を評価するってどういうこと？」

「七小では、どんなことを研究しているの？」

他の教科等と比べて、あまり知られていないと思われる道徳科について、少しでもご家庭に共有して、子供たちの成長につなげていきたいと考えています。

「特別の教科 道徳」について

小学校においては、平成30年4月1日より「特別の教科 道徳」として全面实施されました。また、これまでの道徳の時間では副読本などを活用していましたが、教科化にともない、検定教科書が児童に配布され、教科書を主たる教材として用いるようになりました。



評価について

道徳の教科化にともなって、あゆみ(通知表)に文章として記載されるようになりました。道徳の評価といっても、道徳科の授業で道徳性が養われたかについて評価することは、容易に判断できるものではありません。また、それを数値化することも望ましくありません。

そこで、道徳性そのものを評価するのではなく、道徳性を養うために行われる学習活動において、児童がどのように学んでいるか、その学習状況及び成長の様子を継続的に見取り、あゆみで評価しています。また、この評価は、他の児童との比較によるものではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ますものとしています。

文章としては短いものではありませんが、他の教科等の評価と合わせて、道徳科の評価についても、お子さんと一緒にお読みいただけると幸いです。



裏面に続きます

研究授業①

◆低学年分科会 1年2組 櫻木崇史 主幹教諭

日 時:6月8日(木)5校時 主題名:みんな同じように(C 公正、公平、社会正義)

ねらい:自分の好き嫌いとらわれずに、誰に対しても公正、公平に接しようとする心情を育てる。

教材名:「みんないっしょ」(出典:「新訂 あたらしいどうとくⅠ」東京書籍)

今回取り扱った教材は、1枚のイラストのみで、台詞などもほとんどないものです。このような1年生ならではの教材で、教員がその状況を説明しながら児童に考えさせていく形としました。イラストは、子供たちが休み時間に楽しそうに遊んでいる様子を表しています。しかし、よく見ると、困った表情をしている子もいます。この教材には物語文が一切ないので、子供たちはこの表情から様々なことを想像していきます。



今回の授業では、イラストの様子を黒板に立体的に表し、子供たちにとって分かりやすくなるように工夫しました。また、子供たち同士でペアになって話したり、担任とやり取りをしたりして、この授業のねらいに迫るようにしました。「みんな一緒に遊ぼう!」や「みんな同じの方が楽しいよ!」など、自分たちの経験も思い返しながら、発言していました。授業の終盤には、今日学んだことを活かして、1年2組恒例の「猛獣狩りゲーム」を行いました。これは、ゲームを通して、子供たちが学んだことや考えたことなどを振り返られるようにするための工夫の一つです。子供たちの中には、ゲームを楽しみつつ、「みんなで」という思いを行動で表している子もいました。



授業後には、教員同士で参観して感じたことを出し合って協議会を行います。研究主題に迫るために、奇譚のない意見を出し合って協議を深めています。また、本校では昨年度より、創価大学教職大学院教授の石丸憲一先生を年間講師としてご指導いただいています。石丸先生のご指導の一部を紹介します。

○イラストだけで構成されている教材には、イラストから文脈を想像することへの難しさはあるが(特に低学年は)、児童の気付きを引き出すことができるメリットもある。今回の授業では、児童の考えをしっかりと引き出すことができていた。

○今回の授業における「問題の本質」をしっかりと捉えて発問を考えることが大切である。児童が分かりきった答えを出してくるような発問は排除していくことで、「考え、議論する」授業づくりにつながる。

○1年生のペアトークは、自分の考えを友達に伝えることができれば十分である。2年生以降は、相手の考えにうなずいたり感想を言ったりする等、発達段階に応じて質を高めていくとよい。

授業全体を通して、子供たちの「自分の考えを伝えたい」という思いを感じました。1年生という発達段階からも、今後は自分の考えを書いて表現することにも取り組んでいき、更に深く学んでいけるようにしていきます。

次回は、7月末に実施した第2回の研究授業である3年生の授業の様子をお伝えする予定です。2学期も発行していきますので、お読みいただけると幸いです。それでは、よい夏休みをお過ごしください!

